

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3170200517		
法人名	医療法人 厚生会		
事業所名	グループホーム白鳥の里		
所在地	鳥取県米子市彦名町1210-1		
自己評価作成日	令和3年11月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/31/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3170200517-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市米原2丁目7番7号		
訪問調査日	令和3年12月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員一人ひとりが、入居者のあるがままを受け止め、共に支え合いながら支援を行っている。全てにおいて家庭的で温かな環境を目指し、入居者一人ひとりが、自分の役割・出番を發揮し、自ら意思決定できる働きかけをしている。何でも手作りをモットーに取り組んでおり、おやつ作り、行事なども工夫を凝らしながら、入居者が笑顔で楽しんで頂けるよう力を入れている。地域の行事に参加したり、小学校、幼稚園との交流を図るなど繋がりを持っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

毎月、地域に配布される通信に、グループホーム白鳥の里の基本理念を載せられ、行事や日頃の利用者の様子をお知らせされています。
開設から21年目を迎え、運営推進会議のメンバーも地域からの参加者が多くあり、地域と共に歩むグループホームという存在になっています。
共有空間や廊下にはみなさんが思い思いに書かれた書道作品や季節を感じる手作りの作品も飾られ、明るい雰囲気です。
職員は基本理念に沿って「あるがまま」の利用者の姿を支援するよう努めておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な環境で、自分の役割や出番が発揮できるような場を提供している。毎月のカンファレンスにて理念の唱和を行い意識付けをしている。	職員に対しては、毎月のカンファレンスに於いて理念の唱和が行なわれています。毎月発行されるグループホームの通信にも基本理念が掲載されており、理念に沿った支援が行えるよう図られています。	定期的に、理念の振り返りをされる機会を設けられると良いと思います。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響により、地域行事への参加や幼稚園や地区の小学生との交流が出来なかったが、今後の状況に応じて再開する予定。また、毎月、地区に通信を配布し日頃の生活の様子を伝えている。	従来より、地域の公民館、幼稚園や地区の子ども会との交流を大切に出来てきました。現在はコロナ対策を行いながら可能な関わりが持たれています。近所の方が野菜を下さったり、七夕用の笹を持って来て下さっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの影響により、地域との交流が出来てはいませんが、今後の状況に応じて公民館祭等で健康相談や地域の方の相談を再開する予定。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月毎に開催しサービス状況等の報告を行い情報共有を図っているが、コロナの影響により開催が出来ない月もあった。開催できない月は資料配布を行い報告を行っている。	2ヶ月に1回開催しております。コロナ対策の為、リアル開催できない場合には書面開催とされました。会議資料には、行事や日頃の様子を写真を付け参加者に分かりやすい工夫をされています。会議で頂きた意見等は日々のケアに反映しております。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市の担当者の方に参加して頂き意見等頂いている。何かあれば都度相談をし協力を得ている。	地域包括支援センター職員の方に運営推進会議に参加頂かれています。市役所とはコロナウイルスやインフルエンザの感染症対応の情報等を頂かれ、介護保険制度等不明な部分については相談され保護路より連携が取られています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体で身体拘束をしないように努めている。委員会主導にて、研修会の実施やスピーチロック廃止運動週間を設け、意識の向上を図っている。グループホーム独自の指針を作成し、職員へ周知徹底を図っている。	身体拘束廃止委員会は2ヶ月に1度開かれており、担当職員が職員への周知を促されています。独自の取り組みとして、指針の作成やスピーチロック廃止運動週間を設ける等、職員の意識向上に努めておられます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	研修会にて学び、日頃のケアが虐待行為にならないように、また、見過ごすことの無いよう心掛けている。	法人の虐待防止委員会があり、2ヶ月に1度開催されており、ホームからの担当職員が参加し、結果については職員に周知されています。研修も実施され、虐待について理解を深めておられます。	虐待チェックシートの活用も良いと思います。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、活用されている方はおられず学ぶ機会が持てていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ご家族や申込者との十分な面談を行い、理解して頂けるよう説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナの影響により、運営推進会議のご家族の参加や家族会が開催できない状況だが、日頃より頂いた意見は職員間で協議しケアや運営に反映するようにしている。	コロナ対策の為、運営推進会議への家族参加屋家族会の開催が中断されていますが、お便りを2ヶ月に1度職員がコメントを書き日頃の様子を伝えておられ、面会時やケアプランの見直しの際に意見、要望を聞いておられます。現在は面会制限も緩められ、リアル面会することが可能になりました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスやチーム会際や、必要に応じて面談を行い職員の意見や提案の聞く場を設けている。	全体で毎月行なわれるカンファレンスやユニット毎のチーム会議の際に職員の意見・提案等を聞いておられます。また、定期的個別面談や必要時面談の際に意見・提案を聞く機会を設けておられます。法人に対して、管理者会議の際に管理者が意見を伝えておられます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人では人事考課を取り入れたたり、研修会でモチベーションアップを図ったりしている。希望に応じて部署異動など行っている。	法人として人事考課制度が導入されて、やりがいや、一人ひとりの向上に向け取組まれています。就業環境もも整えられており、働きやすい職場となるように取組まれています。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナの影響により、内外研修は少ないがオンライン研修等に参加し、参加職員により伝達を行っている。定期的なカンファレンスを利用し、勉強会を行っている。	人事考課制度の面談の際に、一人ひとり受けたい研修や資格取得の目標等も聞かれています。法人全体での必須研修やホーム内での勉強会等も定期的実施しておられます。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの影響により中止しているが、再開の際には相互研修に参加し、他施設の取り組みを学び、向上に繋げられるよう努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い情報収集に努めている。入居してから密にコミュニケーションを図り、受け答えしやすい質問や話しやすい雰囲気づくりを行っている。また、表情や行動で察知し傍に行き傾聴を行い不安をなくすよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に面談を行い要望、思いを理解し不安のないよう努めている。面会や電話連絡の際、情報交換を行い日頃から関係づくりを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前にケアマネ、看護師、介護員でご本人、ご家族と面談を行い必要な支援があれば利用できるよう努めている。また、グループホームで行える支援について十分説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者一人一人の出来ることに注目し、それぞれの力が発揮できる役割を提供し、取り組んで頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナの影響により、面会等出来ない状況ではあるが定期的に手紙を書き、生活の様子を伝えたり、電話等で報告したりご家族との情報共有に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響により、外出、面会制限がある為馴染みの人との交流は難しいが、会話の中から馴染みの場所を聞き出しドライブに出掛ける等の支援に努めている。	コロナ対策を行いながら、自宅付近等馴染みの場所にドライブに出かけておられます。面会制限について状況見つつ緩和されてきました。そういう中でも、馴染みの方や場についての話をしてい頂く等、思い出話をして頂けるよう努めておられます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が交流を持てるよう役割や場を提供し、トラブルや混乱が起こらないよう間に入って対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されてもグループホームでの生活情報を必要に応じて提供したり、面会に行ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントシートでの把握や日々の会話、様子、表情で得た事を共有し、ご本人らしく生活できるように検討に努めている。表現が困難な方には、表情や行動から汲み取るよう努めている。	アセスメント情報や日々の関わりの中から希望・意向の把握に努めておられます。表出が難しい方には、家族の情報や本人の表情、行動より汲み取るようにしておられます。	利用者の生きがいに繋がる様な目標作りをされると良いと思います。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報やご家族、ご本人、前ケアマネから聞き取りを行い生活様式や生活環境等得た情報を職員間で共有をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りやアセスメントシートを活用し、情報共有を行っている。また、モニタリング、再アセスメントする事により排泄、睡眠、食事、水分等の変化や現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のチーム会で入居者の課題やケア内容を話し合い検討を行っている。ご本人、ご家族からも困り事や意向を確認し計画書作成に努めている。また、面会時や電話などで家族とも密に連絡を取り合っている。	毎月チーム会でモニタリングが行い、課題、ケア内容について話し合い、利用者・家族の意向を聞き取りながら6ヶ月に1回評価・見直しが行なわれています。利用者に変化が見られる場合には、随時検討され、見直し検討が行なわれます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実施状況をカルテに記入し、職員同士の情報共有をする事で、問題点やニーズを把握しチーム会やカンファレンスで介護計画の見直しを行っている。	利用者の様子や実践状況はカルテに日々記入し、職員間で情報共有されています。問題点やニーズを把握したうえで介護計画の見直しに活用されています。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて、同法人内のリハビリ職員に相談や評価をしてもらい支援を行っている。また、状態を把握する為にナースが病院に同行する事もある。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響により、公民館祭やじげおこし、年二回の神社の祭り等、地域行事への参加やボランティアの受け入れが出来てはいるが状況に応じて再開する予定。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回定期的に併設のクリニックで受診している。家族の希望や必要に応じて他院の受診や往診も対応している。また、日々の様子や症状等かかりつけ医に分かるよう伝達している。	利用者・家族の希望するかかりつけ医されていません。協力医である併設の病院をかかりつけ医にされる方も多いです。併設病院受診の際は看護師が同行されています。従来からのかかりつけ医の場合には家族が受診対応されています。歯科もそれぞれ通院されています。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が配属されており、日々、情報交換や状態説明を行えている。看護師と連携が図れており助言や指導も都度受けることができている。夜間はオンコール体制で待機している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合、サマリーや電話などでの情報伝達を行っている。また、ケアマネ、看護師が中心になり病院関係者、家族との情報交換に努めている。	入退院時には地域連携室との入退院に関するカンファレンスを行い情報交換されます。計画作成者、看護師を中心となり病院側と情報共有しておられます。
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、終末期ケアは行っていないが入居者の身体状況、認知面の低下により生活が難しくなってきた場合は、早めに今後の方向性を話し合う場を設けている。地域との連携はできていない。	利用開始時に重度化、終末期の方針について説明が行なわれています。重度化してきた場合には、早めにホームとして可能な対応について説明し、次のステップについて話し合わせ、家族の意向を確認し話し合われています。法人内に併設した老健もあるので、そちらでの対応も選択頂けます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応など、法人全体で研修やグループホームでも年1回の勉強会を行っている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体で各部署、災害訓練を行っている。グループホームでは年2回火災訓練を消防署立ち合いで行い、訓練後に助言を受けている。	年2回火災訓練が行われています。内1回は消防署立会いで行われています。事業継続(BCP)計画も作成され、訓練も実施しておられます。原子力避難計画も策定されています。備蓄は3日分幼逸しておられます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	委員会主導にて3ヶ月ごとに接遇のテーマを決め、改善向上に努めている。個人を尊重した言葉かけや羞恥心に配慮しながら行っている。時には、方言や馴染みの言葉を取り入れながら対応している。	基本的なプライバシーは居室は個室ですので守られています。法人内の教育委員会により3ヶ月ごとにテーマを決め接遇の改善・向上に努めておられます。事務所内にも目標の掲示をされています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望が表現できるよう、関係づくりや雰囲気づくりに心掛け言葉かけを行っている。また、入居者の話に耳を傾け自己決定出来る様努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の大まかな日課はあるが、その時の体調や状況によって出来ない事もある。個々のペースや思いを大切に尊重しながら対応している。また、無理強いせず、希望に沿った支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った衣類をご本人と一緒に準備したり、ご家族にも協力してもらいながら用意し、着て頂けるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナの影響により同じテーブルで食事は出来ないが、野菜の皮むき、カット等の味噌汁作りや米研ぎ、食器類の洗いや片付け、日程を設け、カレーライス、お好み焼き、鍋、おやつ作り等一緒に調理も行っている。	現在はご飯と汁を用意され主菜・副菜は配食で提供されていますが、栄養面は管理栄養士とも相談され、彩りや量も気をつけ、食事は楽しみの一つですので大切にされています。食事の準備や片付け等お手伝いが可能な利用者の方には職員と一緒に行って頂いています。誕生会には好みをの物をお出ししたり、行事食の提供もあります。手作りのおやつもみなさんで作っておられます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立を立て、バランスの良い食事を提供している。食事や水分チェック表を活用し、摂取量が少ない方には好みの飲み物を提供している。体重増加傾向の方や疾患にあわせて、主食量の調整や食事形態の変更も必要に応じて行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促し、出来ない所を介助している。義歯洗浄も出来る所はしてもらい、夜は洗浄剤に入れ保管している。必要時には歯科受診をしてもらっている。	毎食後、歯磨き等の口腔ケアを促されています。必要があれば仕上げ磨き等の介助も行われています。義歯の方は義歯洗浄を行って頂いております。必要に応じて歯科受診をされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の動作能力に応じた排泄援助を行う事で出来る限り自立に向けた支援を行っている。また、個々の排泄パターンを把握し、尿意の無い方は定時トイレ案内を行い排泄を促している。	排泄チェック表を使い、それぞれの排泄パターンを把握し、声掛けやトイレ誘導等、必要な支援が行なわれています。トイレでの自立した排泄の継続を念頭に一人ひとりに合った支援が行なわれています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳、ヨーグルト等の乳製品を摂ってもらい、1日1回は味噌汁の具に海藻を入れて提供している。歩行運動を毎日行ってもらいながら必要時には看護師に相談し下剤を服用してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	3日1回と限られた時間内での入浴ではあるが、出来る限り希望に沿って入浴して頂いている。ご本人が望まない時は無理強いせず柔軟に対応している。異性介護を嫌がられる方に関しては、入浴当番を代わる等対応している。	利用者の希望なるべく添えるような入浴を心掛け、週に2回以上語源、午後入浴が行なわれています。気分がのらない利用者には無理強いをせず、柔軟に対しておられます。同性介助を希望される方には対応しておられます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡の時間を設けている。傾眠等ある時は都度休んでもらっている。季節に応じた寝具や室温調整を行い安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のカルテより服薬内容の理解に努めおり、服薬が変更があった場合は看護師から伝達、指導を受け、スタッフ間で共有している。服薬チェック表の活用している。	個人ファイルの中に服薬内容についての処方箋等も一緒に入れてあります。薬は看護師が全部薬局から全部受け取り、服薬チェック表を活用して職員による服薬支援が行なわれています。服薬の健康等の場合には看護師から職員に伝達され、利用者の変化等を確認しておられます。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意な事や出来る事を見つけ、役割を持って頂く事で力が発揮できるよう支援している。散歩やドライブを行い気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響によりご家族との外出、外食等出来ていないが、天気の良い日は散歩、ドライブへ出かけ季節を感じれるよう努めている。	コロナ対策の為、従来のように家族との外出、外食は控えておられますが、季節の移り変わりや外気にふれる事ができるようお花見や紅葉狩りのドライブに出かけておられます。また、利用者の希望でドライブに出管られる事もあります。天気の良い日にはホーム周辺の散歩も行われています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は、全ての入居者は所持していない。欲しい物等あれば、職員が代行して買い物を行う。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望あれば使用してもらっている。家族からの電話があった場合は、取り次いで話をして頂いている。入居者によっては週1回定期的にご家族より電話をかけて頂き楽しみに繋がったり、手紙が届いてる方もいる。手紙は、年賀状を入居者に作成してもらい家族へ出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは清潔に気をつけ、空気清浄機を設置している。廊下には季節を感じられる様な入居者の作品等で装飾をしている。	温度・湿度にも気をつけBGMを流す等して、和やかに落ち着ける環境作りが行なわれています。定期的な換気も行い、空気清浄器も稼働されています。季節を感じて頂ける壁面装飾が行なわれています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下、空きスペースにソファ、椅子、テーブルを置き、くつろげる空間を設けている。また、日が当たる時間に日向ぼっこが出来る空間を設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れた物や持ち物設置したり、家族や知人との写真や自ら作成した作品を飾りたりし、居心地の良い居室作りを行っている。	自宅で使用していた使い慣れた物を持ち込んで頂いたり、家族の写真等飾って頂き自宅に近い環境作りが行なわれています。ベッドの位置も利用者の動線に配慮して位置を変え本人の過ごしやすい居室環境になるよう心掛けておられます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレ等、分かりやすい様に表示している。個人的に案内板を作成し、出来るだけ自立した生活が送れるよう工夫している。導線上に障害物を置かないよう安全面に配慮している。		